

医療経済社会科学 No.4

ジェンダー医学

—— 性差が医療にどう影響するかを論じる

目標：生物学的性差（Sex）と社会的性差（Gender）が医療・疾患・治療効果・医師患者関係にどう影響するかを理解し、ジェンダーバイアスが生む医療格差と、性差を考慮した精密医療の必要性を論じられるようにする。

衝撃体験：この授業の核心

導入：「心筋梗塞は男性の病気」というイメージが女性の診断遅延を引き起こしてきた。女性の心筋梗塞は胸痛ではなく吐き気・疲労感として現れることが多く、1990年代まで女性はほとんど臨床試験から除外されていた。

清光学院 AP SEIKO / スプリント医療経済社会科学 No.4

採点者の視点 —— 合格答案と不合格答案の分岐点

採点者の視点

採点者の視点

採点者はここを見ている —— ジェンダー医学・性差医療で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

ジェンダー医学・性差医療では、ジェンダーと生物学的性差の根拠が答案の質を大きく左右します。

② ジェンダー医学・性差医療で採点者が見ているポイント

「生物学的性差（セックス）と社会的性別（ジェンダー）を区別して医学的に論じた答案」が高評価

この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

核心1：Sex（生物学的性差）とGender（社会的性差）の区別

Sex（生物学的性差）とGender（社会的性差）の区別：Sex：染色体・ホルモン・解剖学的差異による医学的違い。Gender：社会的役割・文化的期待が医療行動・診断・治療に影響する。この区別が精密医療の出発点。

核心2：ジェンダーバイアスが生む診断遅延

ジェンダーバイアスが生む診断遅延：女性は痛みを訴えても心因性と判断されやすい（Bikini Medicine問題）。自己免疫疾患・線維筋痛症の診断が遅れる傾向。臨床試験の被験者が男性中心だったため女性への適用に問題が生じてきた。

核心3：性差を考慮した精密医療（Precision Medicine）

性差を考慮した精密医療（Precision Medicine）：薬物代謝・副作用発現率・治療反応性に性差がある（例：アスピリンの効果は性差が明確）。女性固有疾患（子宮内膜症・PCOS）への注目と研究投資の不足は現代医療の課題。

 **続きは講義でご覧いただけます**

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。